

令和 4 年 6 月 22 日現在

機関番号：10102

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K13972

研究課題名(和文) 九鬼周造の歴史哲学から見た「京都学派教育学」 九鬼と西田の比較研究を基礎として

研究課題名(英文) "Kyoto School Philosophy of Education" from the Perspective of Shuzo Kuki's  
Philosophy of History: On the Basis of a Comparative Study of Kuki and Nishida

研究代表者

古川 雄嗣 (Furukawa, Yuji)

北海道教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：50758448

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：九鬼周造や西田幾多郎の哲学に関する研究を基盤としながら、現代の実践的な教育問題についての発展的な哲学的考察を行なった。具体的には、大学改革に関する批判的考察と、小中学校における道徳教育のあり方についてである。いずれも、直接的に九鬼や西田の哲学に基づくものではないが、偶然性や自由の問題についての彼らの思想から示唆を得ている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

偶然性や自由の問題を中心とする九鬼周造や西田幾多郎の哲学を基盤としながら、現代の実践的な教育的諸問題について原理的な批判的考察を行なった点に本研究の学術的意義および社会的意義がある。「大学改革」の問題については、90年代以来の「大学改革」政策が、研究・教育の様々な意味での偶然性を排除することによって、むしろ研究・教育の豊かさを奪っていることを明らかにした。道徳教育の問題については、特に自由・自律の哲学的な意味と価値を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：Based on studies of the philosophies of Shuzo Kuki and Kitaro Nishida, I have conducted an evolving philosophical examination of contemporary practical educational issues. Specifically, I have critically examined "university reform" and the state of moral education in elementary and junior high schools. Neither of these considerations is directly based on the philosophies of Kuki and Nishida, but I draw suggestions from their ideas on the problems of contingency and freedom.

研究分野：教育学

キーワード：九鬼周造 西田幾多郎 偶然性 自由 道徳教育

## 1. 研究開始当初の背景

(1)「京都学派教育学」の概念で名指される哲学者は、ほとんど専ら、西田幾多郎と田辺元、およびその教えを受けた木村素衛や森昭などに限定されており、同時代に彼らと交流をもちながらも独自の哲学を展開した九鬼周造は、ほとんど視野の圏外にあった。また、哲学研究の分野においても、九鬼哲学の本格的な研究は立ち遅れていた。

(2)近年の「京都学派教育学」の再評価は、ほとんど専ら人間形成論的観点に限定されたものであり、「京都学派哲学」の核心であった「歴史哲学」の問題が捨象されている。それによって、「京都学派教育学」は「京都学派哲学」を矮小化すると同時に、歴史哲学を基礎とした国家や民族・文化の問題についても、その批判的考察が捨象される結果となっていた。

## 2. 研究の目的

(1)申請者がこれまで進めてきた最新の九鬼周造研究をさらに継続・発展させ、まずは主として西田哲学との比較を通して、九鬼哲学を歴史哲学へと発展的に解釈すること。

(2)(1)の成果を我が国の教育学研究の文脈に接続することにより、それを人間形成と道徳教育のための哲学的基礎理論へと発展させること。

## 3. 研究の方法

(1)九鬼周造、西田幾多郎を中心とする哲学文献の読解。

(2)国家、民族、文化に関する近年の政治理論と教育理論の動向の整理・検討。

(3)(1)と(2)の接続。

## 4. 研究成果

(1)九鬼周造研究に関しては、九鬼の偶然論が現代の政治理論における多文化主義の哲学的根拠を示していることを明らかにした。従来の九鬼研究においては、九鬼哲学が閉鎖的な文化的ナショナリズムに陥っているという解釈が一般的であったが、本研究は、九鬼の偶然論の精緻な読解を通じてその誤りを指摘し、九鬼哲学が多様な民族・文化の独自性と相互承認および相互交流の実践哲学を示していることを明らかにした。

また、「運命」と「自然」の概念の構造を精緻に分析し、それを実践哲学へと発展させる可能性を示した。「自然」概念についても、従来の九鬼研究においては、単なる自由な意志に基づく道徳的実践の否定（いわゆる「自然支配」を否定する「自然随順」）として解釈される傾向があったが、本研究では、第1に、九鬼哲学における「運命」の概念が、自由意志に基づく道徳的実践を明らかにその契機として含んでいること、第2に、九鬼が示す「自然」の概念は、単なる自由の否定ではなく、むしろ自由に基づく道徳的実践の反復によるその「習慣」化を意味していることを明らかにした、すなわち、実践哲学としての「運命」が「習慣」を媒介として「自然」に至るのは、九鬼哲学が示す道徳哲学であることが明らかとなった。

研究後半では、甲南大学九鬼周造文庫に所蔵されている未公開書簡の整理を依頼されたため、それとともに、それをもとにした九鬼哲学全体の再考に着手した。

西田幾多郎研究に関しては、偶然性の概念を契機とする実践哲学への発展的解釈の可能性を示したが、十分な研究の深化には至らなかった。

(2) 特に近年の政治学における共和主義研究、およびそれを基盤とした市民教育論の研究を集中的に行った。共和主義は多様な側面を持つが、その本質の1つとして、自然の偶然性(運命)に抗って持続的な国家共同体を建設しようとする事、そのために自由で平等な市民が「徳(civic virtue)」をもって公共の事柄に積極的に参加することを重視することが挙げられる。近年の欧米の政治学および教育学においては、自由で民主的な国家・社会を再建するために、共和主義を基盤とした市民教育論が盛んであるが、我が国の教育学においてはほとんど言及されず、そこに大きな認識の相違があることが明らかとなった。

本研究では、欧米の主要な共和主義的市民教育論を対象として、そこで挙げられている市民的徳の具体的内実を整理することまでを行った。また、共和主義的市民教育におけるナショナリズムおよびパトリオティズムの位置付けが、さらなる研究の課題として残されていることを明らかにした。

(3)(2)においては、(1)との直接的な関連についての考察には及ばなかったが、共和主義思想における「自然」「偶然」「運命」といった概念と九鬼・西田におけるそれとの異同を慎重に検討することが、いわば日本の共和主義の構想につながる可能性があるという着想を得ることができた。ただし、そのためには(1)と(2)の双方についてさらに膨大な研究課題を克服する必要があることから、将来的な研究課題として残された。

(4)その他、九鬼周造研究を基礎とした発展的な実践的研究として、90年代以降の「大学改革」に関する批判的検討を行った。そこでは、特に「大学改革」における各種の評価方法として採用されているPDCAサイクルに関して、研究・教育における偶然性の契機が排除されることにより、かえって研究・教育の具体的内実が削ぎ落され、抽象化・形式化されてしまうこと、それにより、個々の学生のニーズに応じた柔軟な教育や、思いがけない発見等を活かした発展的な研究や画期的な研究が阻害されてしまうことなどを明らかにした。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 古川雄嗣	4. 巻 70(1)
2. 論文標題 小・中学校道徳科及び社会科、並びに高等学校公民科の接続・連携に向けて：予備的考察としての新学習指導要領の分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 北海道教育大学紀要（教育科学編）	6. 最初と最後の頁 41-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 古川雄嗣	4. 巻 21
2. 論文標題 九鬼周造の人生と哲学	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 心の危機と臨床の知	6. 最初と最後の頁 97-114
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 古川雄嗣	4. 巻 603
2. 論文標題 P D C A サイクルと偶然性の問題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 I D E：現代の高等教育	6. 最初と最後の頁 14,19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 古川雄嗣	4. 巻 115(4)
2. 論文標題 「市民の国」は「サムライの国」：道徳教育における普遍性と多様性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 學鐙	6. 最初と最後の頁 26,29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古川雄嗣	4. 巻 69(2)
2. 論文標題 「大学改革」におけるP D C Aサイクルの批判的考察(3)(完):偶然性を生かすマネジメントサイクルの構築に向けて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 北海道教育大学紀要(教育科学編)	6. 最初と最後の頁 73,86
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古川雄嗣	4. 巻 68(1)
2. 論文標題 「大学改革」におけるPDCAサイクルの批判的検討(2・続):三つの批判類型とその本質	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 北海道教育大学紀要(教育科学編)	6. 最初と最後の頁 41,51
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 古川雄嗣	4. 巻 68(2)
2. 論文標題 小学校道徳教科書における「愛国心」の取り扱いについて:教育出版と光文書院を事例として	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 北海道教育大学紀要(教育科学編)	6. 最初と最後の頁 47,57
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 幸坂健太郎、大谷周子、柚木朋也、川邊淳子、佐々木貴子、西原千博、和田恵治、平岡俊一、古川雄嗣、前上里直、宮前耕史、長根智洋	4. 巻 68(2)
2. 論文標題 異領域の多角的視野を活かした教養科目「生きる」の教育効果の測定(1):量的分析を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 北海道教育大学紀要(教育科学編)	6. 最初と最後の頁 223,233
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 古川雄嗣、宮北琴子	4. 巻 68(2)
2. 論文標題 エーリッヒ・フロムにおける「愛」の概念とその教育的示唆について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 北海道教育大学紀要（教育科学編）	6. 最初と最後の頁 31,46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 8件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 古川雄嗣
2. 発表標題 PDCAサイクルと大学入試改革
3. 学会等名 大学コンソーシアム京都（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 古川雄嗣
2. 発表標題 九鬼周造の人生と哲学
3. 学会等名 甲南大学人間科学研究所（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 古川雄嗣
2. 発表標題 道徳教育は「市民」を育成できるのか 拙著『大人の道徳』をめぐって
3. 学会等名 「日本文明」研究フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 古川雄嗣
2. 発表標題 体験的北海道論 地方切り捨ての末路
3. 学会等名 モラルサイエンス・コロキウム（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 古川雄嗣
2. 発表標題 「公民」とは何か
3. 学会等名 北海道高等学校教育研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 古川雄嗣
2. 発表標題 『大人の道徳』について
3. 学会等名 道徳教育学フロンティア研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 古川雄嗣
2. 発表標題 PDCAサイクルという「鉄の檻」
3. 学会等名 第25回大学教育研究フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 古川雄嗣
2. 発表標題 偶然性を組み込んだマネジメントサイクルの構築に向けて：PDCAサイクルを問い直す
3. 学会等名 甲南大学教員組合シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 古川雄嗣
2. 発表標題 「日本人の自然観」という問題
3. 学会等名 京都大学こころの未来研究センター「こころの思想塾」（招待講演）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 道徳教育学フロンティア研究会	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 322
3. 書名 道徳教育はいかにあるべきか 歴史・理論・実践	

1. 著者名 古川雄嗣	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東洋経済新報社	5. 総ページ数 343
3. 書名 大人の道徳：西洋近代思想を問い直す	



1. 著者名 藤本夕衣、古川雄嗣、渡邊浩一	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 264
3. 書名 反「大学改革」論：若手からの問題提起	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------